

2022年度 独創的研究助成費 実績報告書

2023年2月14日

報告者	学科名	現代福祉学科	職名	教授	氏名	岩満賢次
研究課題	NPO等インターンシップにおけるプログラム開発に関する研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	岩満賢次	現代福祉学科・教授	社会保障論	研究代表者	
研究組織	分担者					
	<p>昨今多くの大学においてサービス・ラーニングの手法を用いた地域の問題解決型の取り組みが行われている。しかしながら、その対象が企業や行政などの職場体験要素の強いものが多く、地域の問題解決に取り組むインターンシップは未発達である。</p> <p>NPOは従来地域の課題解決に向けて取り組んでいる組織であるがそのインターンシップはあまり注目されていない。NPO等インターンシップのモデルプログラムを開発し、実験的に実施を行い、その有用性を検討した。</p> <p>本研究は、NPO インターンシップ実施希望のあった5団体並びに、参加希望のあった学生7名を対象に実施した。</p> <p>スケジュールは下記の通りであった。</p> <p>4月から6月にかけて、モデルプログラムを各団体と協議した</p> <p>6月から7月にかけて、学生の募集と受入団体の調整を行った</p> <p>8月から9月にかけて、7名の学生が5団体のNPO インターンシップに参加した。実施日数は概ね10日間としたが、新型コロナウイルス感染症や台風の影響により、10日に満たない団体もあった。</p> <p>9月21日・1月11日：参加学生と受入団体との振り返り会を実施した。</p> <p>2月9日：参加学生のうち1名が、「2022年度 岡大×岡山県大×ノートルダム清心女子大合同発表会」で発表を行った。</p> <p>これらの研究を進めていくために、「アクティブラーニングプログラムと評価に関する検討会」を開催し、計7回の会議を開催した。</p> <p>今回のプログラム実施にあたっては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前面談シートを活用した学生のニーズ把握 ・岡山NPOセンターによる受入団体のプログラム把握 <p>を行い、両者のマッチングを試みた。</p> <p>さらに、A大学の教員との合同振り返り会、並びにB大学主催の3校合同による発表会に参加し、正課授業で行うA大学、B大学と比較し、その学びの成果を分析した。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>両大学と比較した結果、正課授業で行う場合は事前に大学（教員）がプログラム設定を行っているために、目標達成も明確であり、内容も充実していたように思われる一方で、正課外で実施している本プログラムでは、個々のニーズに合わせたプログラム開発ができるメリットがあった。また、そのコーディネートに岡山 NPO センターの専門職員が関わることにより、そのマッチングの効果を得ることができた。本インターンシップ参加学生はその後の継続（発展）させた活動につながっており、プログラム開発の有用性が見られた。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>地域で学ぶ NPO インターンシップ実施報告書</p>